

第9回政府現地対策本部会議・第12回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月19日(火) 11:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

別添資料のとおり。

2 被害の状況

死者44名(県警本部)。その他阿蘇市において避難者で亡くなられた方あり。

詳細の市町村からの被害情報、避難者数等は資料のとおり。

職員(応援職員含む)の派遣状況、関係機関の活動状況等は資料のとおり。

3 県等の対応状況

(総務部)

県立大学が避難所を撤収することについて、一部の方から避難所を追い出されるような表現の記事あり。学長が避難者に対して説明実施。

(企画振興部)

阿蘇くまもと空港については、到着便の運航が再開。ビルを使わない形で航空機運航中。

(健康福祉部)

義援金は1億7千8百万余。支援物資について自衛隊、運送業者等の協力を得て配布中。

(環境生活部)

廃棄物の処理については、単独市町村で対応困難なところは広域連携で対応中。

仮設トイレについての要請対応中。

本日、国の災害廃棄物支援チームが現地入り。

ゴミの分別が非常に大事。各家庭への周知が必要。

人吉市であらたに断水発生。

(商工観光労働部)

商工関係団体の被災状況は現在収集中。

当初地震ではキャンセルを心配していたが、今回の地震では観光客を受け入れられるかどうか心配な状態。

(農林水産部)

農業用ため池について、新たな情報として西原村で一部決壊の情報あり。

山腹崩壊について、航空機を活用して上空から調査。烏帽子岳付近で崩壊箇所発見。

営農対策に関する相談窓口を各地域振興局に設置。

J Aグループで対策本部を設置。

(土木部)

国道57号の代替ルートについて、昨晚の震度5強の地震後ゆがみだしたとの情報

があったため確認のために通行止めとした。確認後通行再開。

応急危険度判定についてはおおむね2週間を目途に変更。

県建設業協会からも積極的な支援あり。

(教育庁)

公立学校の被害状況及び休校状況を記載。

県立学校における避難状況も記載。

(県警本部)

南阿蘇村でお2人の御遺体発見。

九州縦貫自動車については植木以南を通行止めとしていたが、緊急通行車両については、植木から益城熊本まで通行可能とした。植木インターで警察官を配置して対応中。

主要道路について、他県警察の協力を得て、手動により信号機器の操作を実施。

昨日から女性警察官を避難所に派遣。

4 国等の対応状況

(内閣府)

さまざまな事案について関係機関と連携を図りながら対応中。

(消防庁)

2,000名規模で南阿蘇村を中心に捜索・救助を実施。

(自衛隊)

24,000名規模で活動実施。固定翼機含め約130機で救助及び物資輸送対応。

(警察庁)

他県からの交通部隊の調整等実施。

(国土交通省)

被災市町村にLO（リエゾン）を派遣して情報収集等実施。水が不足している市町村には散水車を活用するなどの対応中。

道路橋梁の調査のためにTEC-FORCE活動中。

(気象庁)

本日10時までで603回の地震発生。

少なくとも1週間は昨夜のような強い揺れに警戒。

今日明日は晴れ。明後日天気が崩れる見込み。

(海上保安庁)

三角港、八代港、熊本港で巡視船7隻による給水及び支援物資の搬送等を実施。航空機4機で即応体制を実施。

(熊本市上下水道局)

17配水池のうち12配水池で試験給水を開始。

(九州電力)

本日停電は10,100戸。土砂崩れによる送電不可となっている阿蘇市、高森町及び南阿蘇村。

全国の電気事業者の協力を得て、発電機車による対応中。

(LPガス協会)

会員540社で現場対応中。

(西部ガス)

復旧体制は昨日どおり。復旧事業の進捗状況説明。

カセットコンロ及びボンベについても貸し出すべく準備中。

(JR九州)

新幹線及び在来線の復旧状況説明。

5 政府現地対策本部長の発言

(松本副大臣)

県民の生活をしっかり復旧させる方向に一步進まなくてはいけない、また一步踏み出すための環境が整いつつある。電気については明日100%、水道は明日、明後日には100%を復旧させる。LPガス、都市ガスについても通常通りの営業を再開させる。自宅で食事ができる環境を整え、暮らしの基本を整える。今日、明日が正念場。

避難所の疲れも顕在化しており、暮らしをよりよくする必要がある。水が食料などの需要に対し、スピーディーに対応する必要あり。

自衛隊の活動については、重要な役割を担っているが、県民の暮らしを復旧させるためには、特に物資の流通に関して地元で活動する企業の取り組みが不可欠。

安倍総理の掲げた食料90万食の供給が、今日最終日を迎える。倉庫ではなく、避難所へ確実に届ける必要あり。県庁の入口に積み残されている物資についても同様。

官房長官は昨夜の電話で、追加で引き続いて90万食を提供することを述べた。どういふ輸送をするかが大きな課題。

避難所の生活について、トイレが足りないという声も上がっている。囲いのないトイレは使えない、という意見もあるので、工事現場で使用されているような仮設トイレを設けられないか。

コンビニの物資も、口に入るものが、熊本県内に集中しつつある。自衛隊の緊急車両と異なり、(コンビニの)物流業者の車は小さく、バラバラで、統制が困難であるが、経済活動のなかで支給できる食べ物の量を増やしていく必要がある。配送が困難な状況で、商業ベースの輸送車も優先させていくことも必要。

避難所の健康管理については、DMATの情報を活かす必要あり。県民の生活を支える。今日、明日が一番の正念場。

熊本市内だけでなく、近隣の市町村の水・電気・ガスを復旧させていく。

阿蘇の復旧については、これから。まずは人命救助、それから復旧。将来を見据えた対応を考えていく必要あり。

困難な部分もあるが、各建物の安全管理を徹底させていく。

6 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

連日の懸命な捜索、避難者の支援おつかれさまです。しかし、残念ながら、お二人の方の死亡が新たに確認された。これにより、今回の地震災害による死亡者数は、4

4名となった。

そして、いまだ行方不明の方が8名おられる。自衛隊、消防、警察、海上保安庁等の防災関係機関の皆様方には、全員の救出を目指して全力を尽くしていただくようお願いする。

余震も相変わらず続く中、避難生活が長期化し、被災者の方々の不安と疲労も大変大きいものがある。

現場で救済活動をされている方は、刻一刻と状況が変わる中、被災者の方々が今何を必要とされているかを的確に把握し、本部に詰めている方につないでください。現場と本部がしっかり連絡を取り合いながら、生活支援に抜かりが無いよう、精一杯努めていただきたい。

こうした中、復旧に関する明るいニュースも入ってきた。

交通アクセスに関して、昨日から、JR九州鹿児島線の荒尾～熊本間で運行が再開し、熊本～博多間を普通列車で行き来できるようになった。

さらに、本日からは、阿蘇くまもと空港において、東京、大阪、名古屋からの到着便の運航が一部再開した。復旧復興の第一歩と感じている。

被災された方々の不便や不自由を少しでも軽減・解消できるよう、国と地方、行政と民間といった垣根を越え、一緒に頑張っていきたい。

(以 上)